



ベトナム・ハロン湾で撮影

市の将来のまちづくりを担う子どもたちの人材育成プログラム 中学生海外派遣事業

海

外文化の体験や現地の人々との交流を通じて、視野を広げるとともに、

自分が暮らす地域の理解を深めるために、市では中学生海外派遣事業を行っています。7回目となる今年は8月19日(月)～23日(金)の5日間、11人の中学生がベトナムを訪問しました。

体験の様子

産業

ベトナムの道路の主役は生活の足、オートバイです。道路を埋め尽くす「オートバイの洪水」が、日常の光景として見られます。オートバイを製造するヤマハモーターベトナムを見学し、海外で働く際の苦労や仕事のやりがいなどを学びました。

歴史

ベトナムは大国に翻弄ほんろうされた歴史を送ってきました。中国やフランスからの支配、そしてベトナム戦争。現在まで積み重ねた歴史とその背景

中学生の感想

ヤマハモーターベトナムでは、ベトナムの人々の持ち前の勤勉さや頭の良さが生かされているとわかり、おもしろいと思いました。

坂井麻衣さん(神明中1年)

ホアアロ収容所では、人と人との争いの残酷さを知り、戦争はいけないことだと改めて実感しました。

大島健太郎さん(向陽中2年)

ベトナムの学生に質問したり、答えたりして、お互いのことをよく知ることができました。ベトドク高校のみんなにまた会いたいです。

小島彩花さん(豊田南中3年)

ベトナムの人々は、とても親切で笑顔で積極的に関わってくれました。分からないことも頑張ってくれました。伝えるよと努力がすごいと思いました。私も外国の方が困っていたら笑顔で助けてあげたいです。

寺田美央さん(福田中2年)



ホアアロ収容所でベトナムの歴史を学習



ホームステイで現地家庭と交流



ヤマハモーターベトナムを見学

日本とベトナム、 それぞれの良さに気付くことができました。



ベトナムの学生に折り紙の折り方を英語で説明



ベトナムの学生に折った折り紙をプレゼント



ホームステイ先の学生と一緒に登校



交流

から、ベトナム人の前向きさを知り、平和の尊さを改めて学びました。

① 現地家庭でのホームステイ

海外派遣事業では初めてとなる、同年代の学生がいる家庭でホームステイを体験しました。

最初は緊張していた様子の子どもたちでしたが、ホームステイ先の家族の温かさに触れ、日本語やベトナム語、英語と身振り手振りで懸命にコミュニケーションを取りました。わずか1日のホームステイでしたが、心に残る経験となりました。

② 学校交流

ホームステイ先の子どもたちが通う「ベトドク高校」でたくさん的高校生たちと時間を過ごしました。

一緒に折り紙で紙飛行機を作ったり、だるまさんがころんだをして遊んだりして、大いに盛り上がりました。また、「日本の歌が聞きたい」という突然のリクエストにも、子どもたちは即興で磐田市歌「ふるさといわた」を歌って応えました。

未来への大きな一歩

子どもたちは、ベトナムでの体験から世界の広さや、積極的に一歩前に出て交流することの大切さ、共に支え合う仲間の心強さを学びました。この経験が自らの夢や希望を持ち、未来を切り開くための限らない力となることを期待し、市では今後も取り組みを進めていきます。

この5日間は、ワクワクと希望に満ちあふれていました。この経験を生かし、これからの自分の未来へとつなげていきたいです。

蜂須賀来奈さん（城山中2年）

国が違い、言葉が違いますが、そんなことは関係なく通じ合えたと思います。これからも積極的に、間違いを恐れずコミュニケーションを取ることを、大切にしていきたいです。

宮本理名さん（磐田第一中3年）